

四川省の子どもたちから感謝のお手紙

こんにちは。

私たちは、四川省綿陽市游仙区瓦子博愛小学校の4年生です。2008年5月12日、恐ろしい地震が突然やってきました。この予想もしなかった地震の後、笑い声であふれていた私たちの3階建ての教室棟は危険な建物になり、そこで勉強ができなくなってしまいました。私たちが絶望しかけていたとき、皆さんは温かい愛の手を差し伸べてくれ、どうしようもなく孤独で悲しい思いを慰めてくれました。

皆さんの救援金のおかげで私たちは新しい教室棟を持つことができました。新しい教室棟が出来上がったその日、私達は皆興奮して、感激しました。広々とした教室、明るい蛍光灯、ピカピカの机やイス…。これを見るたびに、日本の子どもたちが自分のお年玉から1円また1円と募金箱に寄付を入れてくれたおかげなのだとことを思い出します。そして、この教室が日本の皆さんの愛の気持ちで建てられたものだということも。私たちは、今まで以上にしっかり勉強し、皆さんの気持ちに応えるようにします。

皆さんからいただいたやさしさのように、私たちも愛の心を持ち続け、伝えていこうと思っています。この間、学校では「愛の心を届ける」という活動があり、先生たちはお金や物を出し合いました。私たち生徒も、両親からもらったお小遣いを出しました。その額はわずかですが、私たちの心がこめられています。これも皆さんからいただいた「愛を届ける」という心から生まれたものです。

皆さんの力によって私たちは支えてもらいました。私たちは、必ずしっかり勉強し、努力し続け、皆さんの期待を裏切らないようにします。日本も地震がたくさん起きる国だと聞いています。皆さんも安全に気をつけてください。日本の皆さんが健康で幸せでありますように。もう一度、心からお礼を言いたいです。

瓦子博愛小学校 4年生
2010年5月12日

